

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		bamboo宇宿		公表日		2026年2月10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・概ね適切とは思う。ただ、個別活動の際、保護者の見学があるとスペースは少し狭いのかなと感じる。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・小集団では、こどもたちの状態に応じて職員の人数を相談できている。 ・職員同士で声掛けを行いながら配置している。	・集団活動の際は、職員の配置等、配慮しているが、個別活動の後の選択遊びは、職員間での声かけ(リハ職と保育士)が不足しており、リハ職が記録に入れない状況が発生している(保育士はスタッフルームにいる)。声かけの周知・徹底。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・トイレで手を洗うときは、水の調節が難しい。 ・大人用のトイレのため、足のせ等を使っているが、子供用トイレだと練習のしやすさがある。 ・手を洗うときに手が届かないお子さんは、手洗いを求められるよう促す。自立を踏まえると、手が届く環境になると尚いい。	・トイレトレーニングを行う幼児も多かったことから、おまるを購入。段階的にトイレが行える環境整備を行った。 ・トイレでの手洗いが難しい場合は、プレイルームの手洗い場で、手を洗うように促す。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・昨年度と同様に評価表の意見を職員全員に周知し、共有・改善する機会を作る。職員の質の向上、業務改善を図る。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・主任との面談を汲んでいる。 ・常に話し、相談ができる雰囲気。	・来年度以降も継続する。 ・今年度は改めて業務の棚卸し作業を行い、業務内容について明確化した。内容をもとに、業務改善に繋げていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・高田OTが来てくださっていることが該当するのかわからなかったところでした。	・第三者評価は実施できていない。外部講師や公開療育の実施の際に、外部からの意見をもらう機会はある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・土曜日の午後を利用して、研修会を実施している。 ・研修の機会を作って頂いている。	・職員自身がどのような研修を望んでいるのかをしっかりと把握し、自主的な選択・行動を促す為、意見を収集していく。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・支援会議を行い、多職種の意見を取り入れながら計画書を作成している。	・長期目標・短期目標がニーズに合っていないケースも多々ある。客観的評価に不十分さが感じられるため、研修や支援会議等を通して修正を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・支援会議で職員間の情報共有ができていく。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			・個別支援計画書を基にご家族の要望・目標を明確にし、特に担当スタッフにおいては、要望や目標に対する成長や発達の程度が適切に捉えられるように体制作りを行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・相談しながら行っている。 ・保育士で案を立て、主任、児発管と再度内容を話し合い、他の職員と実際にシュミレーションを行っている。 ・月1回話し合いを行っている。	・チームでの立案を行っているが故に、業務としての線引きが分かりにくくなっていることは課題。個別活動、集団活動ともに、チームアプローチは進めながらも、業務としての線引きや役割分担は明確にしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・必ず毎月ミーティングの時間を設けている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・午後の支援の振り返りは次の日に行っている。 ・終了後は児童の対応もあり、翌日に振り返りを必ず行っている。 ・次の日に振り返りを行い、次回の活動に取り入れるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・支援に悩んだ時はケース会議を行っている。	・集団活動に関してはケース会議を継続。 ・日々の記録については、PDCAサイクルによる記載を行っている。目的とした活動、これらに対する考察等を記入した上で、次回のplan作成を実施。一方で、支援者により支援の質や評価内容の程度にばらつきあり、研修会等通して全体の支援の質向上に努めている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・STやPTの意見や質問事項を確認しながら参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			・保育所等訪問の実施、鹿児島大学病院や小児歯科と連携を図り、支援を行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・訪問や送迎時、園と情報共有を行っている。	・保育所等訪問や送迎時の情報共有を継続する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・移行支援シートの作成を行っている。	・今年度は移行支援シートの作成と状況に応じて子供理解表を作成する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)			・私が知らないだけかもしれませんが。	・発達支援センターとの連絡会が3～4ヶ月に1回程度あり、情報の共有や助言等を頂いて	

連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			いる。 ・連絡会には可能な限り積極的な参加を行っており、支援センターを中心として関連施設との交流関係も構築しつつある。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		・保育園・幼稚園との交流の場や他の子供との活動の機会はない。まずは兄弟児も参加できるようにイベントの開催を検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○			・子供の評価を行い、問題点を抽出し、そこに応じた支援を行うことは重要であるが、保護者のニーズに即した支援を行わないと保護者の満足感は得られない。そのすり合わせが、果たしてどこまでできているか。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・家族会の実施、就学教育相談についての説明会を実施。	・今年度は開催ができていない。来年2月に保護者会を実施予定。その後の定期的な家族会等の交流の場を設けていきたい。 ・ペアトレ、ペアプロは体系化できておらず、家族支援の1つとして検討していきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			・今年度は開催ができていない。来年2月に保護者会を実施予定。その後の定期的な家族会等の交流の場を設けていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
非常	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			・LINEですぐに連絡を取れる体制であるが、欠点(業務時間に関係なく連絡が来る)もあるため業務内での対応に留めるような体制作り。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			・利用している子供の緊急連絡先に関するリストを再作成する。
非常	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			・保護者と情報の共有を行いながら、職員全員で子供の現状について確認を行い、周知徹底している(薬の変更、てんかんの状況、対応)
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・保護者からの情報を元に提供しないようにしている。	・継続。

中 時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			・インシデント・ヒヤリハットは事例が発生したら直ちに背景・原因について考え、解決策を事業所内で検討し、再発を防ぐ取り組みを行っている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・就職後間もないため、分かりません。	・研修会への参加、事業所での研修会を実施している。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			